

## 酒井健吉作曲(詩・木部与巴仁)

### よもつひらさか ～舞踊と女声独唱、十三奏者の為の

作曲家自身による解説 (23冬のちゃんぽんソアレーのプログラムから)

2019年に初演した舞踊音楽「オロチ」の続編。古事記を題材にした木部与巴仁さんとの共同作業第二弾です。今回の「よもつひらさか」は古事記のお話としては「オロチ」から遡るのですが木部与巴仁氏との共同作業としての続編としております。「よもつひらさか」とは、この世とあの世つなぐ所。古事記の最初の部分のお話を独自の解釈で作曲し、木部与巴仁氏が詩を書き踊る作品です。音楽的には全部で10曲から成る作品になります。各曲、物語がどのように進行するのか見ていきましょう。

#### 第一曲「混沌の渦」

天と地がまだわかれておらず無限に広がっている状態。だが、次第に天と地が別れようとしている。

#### 第二曲「くらげなすただよえるくに」

ついに天と地が別れた。<sup>たかまがはら</sup>高天原という天上世界にはアメノミナカヌシノ神、タカミムスビノ神、カムムスビノ神という<sup>みはしら</sup>三柱の神が現れた。この三柱の神は万物の生産、生成をつかさどる神である。その後もたくさんの神々が現れた。しかし地上はというと、まだ固まっておらず油が浮いたような状態でクラゲのように漂っていた。やがて男女一対の神々が続けて五組現れた。その最後に現れた一組がイザナギとイザナミである。

#### 第三曲「イザナギとイザナミ<sup>じま</sup>1・オノゴロ島」

イザナギとイザナミは最初に現れた三柱の天つ神から「地上はまだ水に浮かぶ油のように漂っている、地を固めて整えよ」と天沼矛（あまのぬぼこ）を授か

る。イザナギとイザナミが天の浮橋あま うきばしからどろどろの地上をこおろこおろとかき鳴らし引き上げた。矛の先から滴る潮が積もり積もってみるみる間に固まり島となっていくた。オノゴロ島という島になった。

#### 第四曲「国生み・大八島」おおやしま

まぐわいの儀式である。オノゴロ島に降り立ったイザナギとイザナミは夫婦の契りを交わし、国造りを始めた。淡路島、四国、隠岐島、筑紫島（九州）、壱岐島、対馬、佐渡島、大倭おおやまと豊秋津島とよあきづしま（本州）と八つの島を生んだ。このため日本の事を大八島と呼ぶことになった。

#### 第五曲「神生み」

今度は八百万やおよろずの神々を生み始めるイザナミ。家の神、河の神、海の神、水の神、風の神、木の神、等、神羅万象、自然の基本的要素につかさどる神々が続々と生まれてゆき地上世界は整えられてゆく。

#### 第六曲「イザナミの御隠れ」

順調に神々を生むイザナミ。しかし、火の神カグツチを生む際、陰部に火傷を負い床に臥した。そして黄泉の国へ旅立って行った。最愛の妻イザナミを失ったイザナギは火傷の原因となった我が子火の神カグツチを十拳とつかのつるぎ剣で切り殺してしまう。

#### 第七曲「イザナミに逢いに行くイザナギ」

もう一度妻に逢いたい一心で黄泉の国へ向かうイザナギ。

#### 第八曲「黄泉の国の対決～ヨモツシコメ、雷神」

黄泉の国の入り口へ着いたイザナギ、現世へ戻ってきて国造りの続きをしようと言うと、黄泉の国の神々に相談してくるまで、中へ入り私の姿を見ないでと言うイザナミ。しかし待ちきれず約束を破り中へ入ってイザナミを見てしまうイザナギ。腐敗し蛆が這いまわる恥ずかしい姿を見られたイザナミは激怒し黄

泉醜女（ヨモツシコメ）や雷神、千五百の軍勢をイザナギに差し向けた。逃げるイザナギ、十拳劍などで応戦しながら黄泉比良坂にたどり着いた。背後を見るとイザナミも追いついてきた。

#### 第九曲「イザナギとイザナミ2・石の扉」

追いついてきたイザナミを見たイザナギは巨大な岩石で入り口を塞いだ。そして石の扉の向こうのイザナミに夫婦の契りを解くと言ひ渡す。これを聞いたイザナミはそれならばあなたの国の人々を一日に千人絞め殺しましょうと言う。それに対しイザナギは、ならば私は一日に千五百人の子を生ませる<sup>うぶや</sup>産屋を建てようとのたまう。

#### 第十曲「<sup>みそぎはらえ</sup>禊 祓 ～三貴子(みはしらのうずのみこ)の誕生」

地上世界へ戻ったイザナギ。<sup>けがらわしい</sup>穢らわしい死者の世界へ行ったことで自分も穢れてしまったイザナギは筑紫の国の日向の川で汚れを流した。この時、左目を洗うとアマテラス大御神が右目を洗うとツクヨミノ命が、鼻を洗うとタケハヤスサノオノ命が生まれた。音楽的には前半が禊祓で後半が三貴子の誕生を表しております。